

西要寺だより

第107号 令和4年6月8日

●永代経法要をお勤めさせていただきました

5月22日23日の両日、永代経法要をお勤めさせていただきました。両日ともに午後2時より『仏説阿弥陀経』をお勤めをすることから、法要ははじまります。今回の法要より、お勤めの後には数分間、体操をすることになりました。役員さんの先導のもと、軽いストレッチをし、身体も気分もほぐしたので、その後の法話の時間には集中



して聴聞することができました。体操（ストレッチ）の時間につきましては、好評でしたので今後も続けていきたいと思えます（体操の時間が短かったといわれる方もおられました）。その後、ご法話の時間でした。ご法話を聴聞して私の感じたことを、以下区切りながらお話しします。

・・・永代経法要って何ですか？・・・

永代経法要の案内状をお配りした時に、ある門徒さんが、永代経法要って何ですか、という質問をされました。永代経法要のご講師 赤井智顕先生もご法話の冒頭に「永代経法要とは」というお話をしてくださいました。まず、「永代」とはご先祖で、「経」とは教えということで、ご



先祖より代々に伝えてくださった浄土真宗のみ教えを聞かせていただき、そのみ教えをまた子や孫に伝えていくこと。つまり、永代経法要とは、亡くなったご先祖や肉親を偲（しの）び、ご先祖より受け継いだ浄土真宗のみ教えを聞かせていただき、それをまた縁のある人に伝えていくという法要なのです。

・・・偲（しの）ぶということ・・・

永代経法要におきまして、赤井先生がおっしゃったことには、特に若い人は《偲ぶ》ということを知らないということ、《偲ぶ》という言葉がいずれは死語になる、つまり《偲ぶ》という言葉はこれから使われなくなるのではないかということです。法事などのお参りの意味は、故人

を偲びつつ、この私が阿弥陀如来によって救われる身であることを感謝するということであるといいますが、その前提となる偲ぶということを再度、確認していかなければなりません。

そこで、偲ぶということは、どういうことなのだろうか、とあらためて考えますと、故人を偲ぶということは、故人と共にした出来事を思い出すということですね。おられなくなった故人の有り難さを思うことでもあるでしょう。故人は阿弥陀如来のはたらきによって、すでにお浄土の世界に往生されています。怨親（おんしん）平等の境地におられるので、生前中にさまざまなことがあろうとも、故人は遺された人たちの幸せを願ってくださっている存在となられています。もし逆の立場であれば、私がこの世のいのちを終えてお浄土に往生させていただいていたら、この世に遺った人々には幸せになってほしいと思うことでしょう。本当の幸せとは何かを考えたら、それは浄土真宗のみ教えを聞かせていただくことです。そのような思いになることが故人を偲んでいくということなのではないでしょうか。故人から本当の幸せを願われている私であることを思い、感謝の気持ちで法事に参列するべきでしょうね。

・・・阿弥陀如来は立ってくださっている意味・・・

阿弥陀如来は私たちを救おうとして仏さまになられました。ご門徒の皆様のお宅のお仏壇のご本尊、西要寺の本堂のご本尊は、いずれも立ってくださっています。私たちのことが心配で座ってられないという慈悲の心より、阿弥陀如来は立って下さっているのです。この阿弥陀如来の大いなるお慈悲の心を聞かせていただくことが聴聞なのです。阿弥陀如来の大いなるお慈悲の心を聞く、つまり私たちを救うはたらきをして下さっている心をいただくことによって、私たちの心が安らぐとともに明日へと生きる力となっていくのです。私たちの心が安らぎ、明日への生きる力を得ることができるのは、阿弥陀如来のはたらきなのです。初めて聴聞しても実感はあまりないかもしれませんが、繰り返し繰り返し聴聞する（法を聞く）ことによってじわじわとその意味や有り難さを知ることとなるでしょう😊。



●西要寺掲示板（真宗教団連合法語カレンダーより）

「あたりまえだと言うて また不足を言うて生きている」

コロナ前ではあたりまえであったことが実は有り難いことだったので、と再認識させられましたといいながら、まだまだ私の口からは不足の言葉が次から次へと出てきます。でも、不足ばかりを言っている私の口から「南無阿弥陀仏」が出てきていますね。それはお仏壇の前とか、住職とともにお参りしている時とかに。阿弥陀如来のはたらきを感じずにはおれません。

「失ったものを数える人あり 与えられたものに感謝する人あり」

年を重ねていくと出来ないことが増えてきます。まず、高い所のものがだんだんと取れなくなる、外出すると疲れる、足腰が痛く正座できないとか……。失ったものを数えても辛くなるだけです。ご飯が美味しいとか、孫と会って楽しいとか、足腰は弱ったけど毎日部屋の掃除は出来るよとか……。まだまだ私には与えてくださっているものがあることに感謝する人の方が楽しく人生を送れますよね。



●お知らせ

16年の間、西要寺に居ました犬（柴犬）が、昨年12月19日に亡くなりました。

●LINE（ライン）の追加を（再）

西要寺への連絡用にLINEを作りました。LINEをされている門徒さんは追加してください。お寺への連絡用にお使いください。

LINEを下されば必ず返信はしますが、少し時間が掛かる場合があることをご了解ください。お願いいたします。なお、LINEの友だち登録のできない方はお申し出下さい。私のわかる範囲でお手伝いします😊



●住職から最後一言

私（住職）は西要寺の法務（お参り）をしながら、浄土真宗本願寺派総合研究所の研究者として京都へ行っているのですが、その研究所の所長先生が急死されたのです。所長先生は東京大学で教授をされていて、ご出身も東京ということで、東京の築地本願寺でお葬儀がなされました。その葬儀はちょうどゴールデンウィーク中でしたので、西要寺の門徒さ

んの法事があったということあって、私は所長先生の葬儀に参列することは出来ませんでした。ついこの前まで研究所でお会いしていた先生でありましたが、急におられなくなった、しかももうこれから二度と会うことが出来ないということに。私の頭のなかはモヤモヤした感じがずっとあるのです。私は普段、親しくしていた門徒さんが亡くなられても葬儀に行き、最期のお別れもします。葬儀を執行する側ではありますが、どうやら私の心の奥底では故人にお別れをするというけじめをつけていたことに気づきました。葬儀には、故人のためと思って参列しますが、実は故人ともお別れのけじめをつける場でもあったのです。

◎今後の西要寺行事予定◎

【定例法座】

6月22日(火) 午後2時より

講師：西要寺住職

場所：西要寺本堂

【定例法座】

7月22日(金) 午後2時より

講師：山田秀英師(本願寺派布教使 豊岡市出石町・高福寺住職)

場所：西要寺本堂

【盂蘭盆会法要】

8月13日(土) | 14日(日) | 15日(月) いずれも午前11時より

場所：西要寺本堂

ホームページ (saiyouji.com) インスタグラム (saiyouji.a)

YouTube



浄土真宗本願寺派 **西 要 寺**

〒661-0024

尼崎市三反田町1丁目7-27

電話 06-6429-8241

FAX 06-6429-8239